

2020 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	肖 越
研究テーマ	初期浄土経典成立史の基礎研究—人間学としての浄土教
研究概要	〈無量寿経〉諸本の詳細に比較を吟味した上で、更にほかの浄土類の経典群を取り込んで文献学の視点から『大阿弥陀経』と『平等覚経』の成立の歴史的な背景を究明する。それに〈無量寿経〉とほかの浄土経典の成立関係を究明する。引き続き『大阿弥陀経』の英語訳注を行う。

1. 研究活動の概要と研究成果	研究概要に随って、人間学としての浄土教を中心にして〈無量寿経〉の成立に関して総合的な研究を行ってきた。その結果：(1) 語彙、思想、経録、日本古写経などの多方面の資料から「〈無量寿経〉漢訳 諸本のタイトル」という英語論文を発表した。(2) 〈無量寿経〉と〈阿弥陀経〉の関係について論文 を発表した(詳細の論考は英語論文で纏めている)。それによって、『大阿弥陀経』の特徴を二つの用語 で纏められることが分かった。(3) 『大阿弥陀経』の英語訳注の研究は、以前の発表を確認しながら、進めている。
2. 学術論文・学会発表等	① 「A Study of the Titles of the Chinese Translations of the Larger <i>Sukhāvataīvyūha sūtra</i> 」『佛教大学仏教学会紀要』26, pp. 101-130, 佛教大学仏教学会 (2021 年 3 月, 査読有) ② 「〈無量寿経〉と〈阿弥陀経〉の成立の関係について」『印度學佛教學研究』69(2), pp. 766-762, 日本印度学仏教学会 (2021 年 3 月, 査読有) ③ 「〈無量寿経〉と 〈阿弥陀経〉の成立関係について」 第 71 回日本印度学仏教学会学術大会にて発表、(2020 年 7 月 4 日オンライン (リモート) による開催)
3. 今後の課題	引き続き、研究計画を踏まえて、『大阿弥陀経』の英語訳注、成立論など多方面から文献学的な研究を進めて行きたい。特に、インドで発生した阿弥陀信仰を詳細に説く『大阿弥陀経』『平等覚経』は、どのように翻訳したのかという 1700 年以上にわたる謎の解明を試みる。加えて、世界で起きている現実を自分の課題とし、実践論、現代社会における古代文献の意義を巡って人間学として浄土教の研究を究めていきたい。